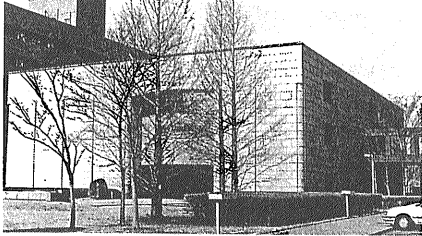


## 地質標本館だより



No. 45

### 館内授業 (1996年9月4日)

小学校の第6学年から地層の学習が始まり、学校の授業として本格的に地球科学に触れるようになります。地質標本館では、要請があれば館内展示物の利用および普及講演により、授業のお手伝いをしています。9月4日につくば市立谷田部小学校6年生133名が地質標本館を訪れましたので、地層の学習の導入のため20分ほどの講演を行い、その後1時間ほど館内の見学をしていただきました。谷田部小学校では担任の先生方が「めざせ!! 地層のプロ 地質標本館物語」というワークシート形式の冊子を作り、生徒が問題を解きながら授業に参加し、見学していくというシステムをとったため、皆熱心にメモをとりながら授業が進行していきました。(利光誠一)

### 地質標本館の隔週土曜日開館

官公庁の週休二日制が完全実施され、標本館も土曜日は閉館するようになって久しい。開設当初から日曜日の開館を望む声が多かったところへ逆行の追い討ちとなった。標本館は独立した博物館ではないので、庁舎管理上やむをえないことではあったが、一般には不評であった。何とか土曜日だけでも開館できないかとの検討は、運営委員会などでも常に話題となってきたが、諸般の事情により、これまでは見送られてきた。

今年の夏休み頃から急に風向きが変わった。土曜開館への動きが企画室を中心ににわか活発にな

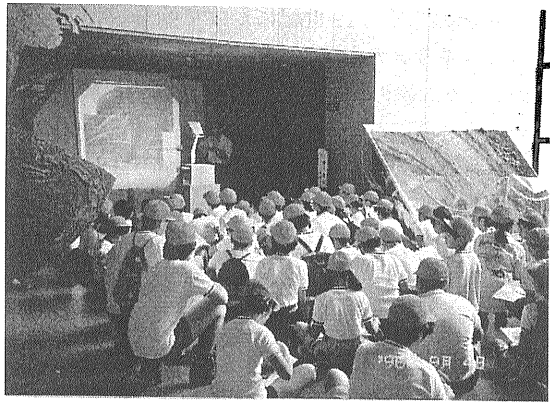


写真 地質標本館1階展示ホールの“特設講演会場”での地層と岩石の授業風景。ホール正面の褶曲模型や床・壁面の花崗岩が材料となり、生徒や引率の先生にも好評を博した。

ってきた。その背景には、情報公開が叫ばれる中で、子供達の理系ばなれの風潮に歯止めを掛けようとの名分があったようである。これまで土日も開いていた国立科学博物館の実験植物園に加えて、国土地理院や農林系研究所の休日公開が具体化したことも追い風となった。話はとんとん拍子に進み、この10月から、公立小中学校が休みとなる第2・第4土曜日に開館する運びとなった。

開館するからにはお客さんに来てもらわなくてはならない。すでに土曜閉館が定着しているので、とり急ぎ開館案内の通知書とポスターを作成し、つくば市とその周辺役所、学校、マスコミ、観光業者など約300の関係方面へ配布した。また、開館日には職員が常駐しなければならず、標本館所属の研究職と管理専門職計8名の内2名が持ち回りで担当することも決まった。

こうして懸案であった標本館の休日開館へ向けてのささやかな第一歩が踏み出された。これまでのところ、開館土曜日の入館者数は平日の平均をはるかに上回っている。本格的な休日開館が実現するか否かは定かではないが、来館者の数と評価が重要な目安となることは疑いない。(遠藤祐二)

地質標本館は、第2・第4土曜日にも開館しています。